



過干渉というのは？

A. 干渉しすぎることを、ですね。



大切な自分の子どもが幸せになってほしい、楽しく過ごしてほしい、傷つかないでほしい、泣かないでほしい、と親は考えてくれるものですよね。

でもそれが必要以上のお世話になったり、親の意見を押し付けたりになってしまっているなら「過干渉」と呼ばれてしまいます。

読んで字の通りに、干渉しすぎることを「過干渉」と言うのね。

親が子どものことを過剰に保護することを指す言葉に「過保護」があります。

甘やかした子育てと捉えられてしまうことも多いのですが、決して悪いことではなく、親が子どもの要求に応えることで、こどもの[自己肯定感](#)を培っていくのですね。

「過保護は自立の芽を育て、過干渉は自立の芽を摘む」と精神科医の故・佐々木正美氏は断言されているの。

親の願望を子どもに押し付けたり、子どもの人生をコントロールしようとするのが「過干渉」と言われています。

子どもは望んでいないのに「やってあげなくては」と自分の価値観だけを基準にして、思い込んでしまう特徴があるといわれているわ。

[子どもが失敗](#)すると自分の評価に影響してしまう、と考えて不安になり自分のため、という思いに気づかないまま干渉を続けているケースもあるとされています。

子どもの思いを聞かずに、こうしてあげることが子どもの幸せにつながる、と思い込んでしまうのね。

「過保護」も「過干渉」も、子どもに何かをしてあげる、という点では同じ行為なの。

でもそこに「自分の考える理想の子どもにしたい」というコントロールしたい気持ちが入り込んでしまうと危険なことになってしまうのです。

「宿題をしなさい」「お行儀よくしなさい」「身だしなみをきちんとしなさい」

ひとつ一つの言葉にはちゃんと意味があって、宿題は早くしてしまった方が自分の時間ができるし、お行儀や身だしなみは良い方が人からの評価は高くなるわ。

でも、それを言いすぎてしまうと逆効果になってしまって、思っている以上に子どもを傷つけてしまうことになるの。

親としては悪気はないのだけれど、つい否定的になってしまいがち。
テストで1問間違えて100点でなかったときに「不注意だから間違える」とか、子どもが話し終える前に話をさえぎったり、発言する前に話始めたりして子どもの意見を聞かない。
子どもが納得していない意見を押し付けていたり、子どもが本当に遊びたい人ではなく、親の思いで交友関係を決めたりしてしまう。

過干渉が子どもにもたらされる悪影響はいくつか言われています。
適切な場面で褒めてもらう経験が不足するので、自己肯定感が低くなってしまふ。
子どもの好きなものや選んだものに対して、親の気持ちと合わないとな否定的な意見を言われてしまふので、自信を持てなくなってしまうの。

いつも自分で選んだものを否定されてしまひ親が選んだものしか選択肢がなくなってしまうと、自分で考えて行動することが億劫になってしまう。
他者が選んだものしか与えられないとなると、無気力にもなるし選ぶ楽しさは知らないということになってしまうもの。

いつも他者が選んだものしか与えられない、ということは自分で選択する経験を積めていないということ。
自分で決める、判断するということが出来なくなってしまうのね。
それでは社会に出たときに、マイナスからのスタートになってしまいます。

いちばん困るのは、こういうことの繰り返しで親子関係が悪化してしまうこと。
ダメなことをダメ、と伝えなければいけないときに、関係が悪化していると素直に言えないし聞けないということになってしまいますね。
本当に伝えなければいけないことを伝えられなくなってしまうのですね。

危なっかしいと感じることも、時には大きな気持ちで見守りながら、子どもの意見を聞き、一緒に考えていける関係性を築きたいものですね。

[《MENU》](#)

[《難病ってどんな病気なの？》](#)

[《合理的配慮というのは？》](#)